

令和5年度 『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』

荒川区立諏訪台中学校

様式4

		アンケートの結果						
		上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員						
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共にできるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。					
			A	B	C	D	よく分からぬ る	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	31	45	14	4	6	0
	2	児童・生徒の様子	17	65	9	0	9	0
	3	基本的生活習慣	65	30	3	1	1	0
	4	児童・生徒理解	26	65	5	1	4	0
	5	健康・安全・安心	51	46	2	1	0	0
学力向上の取組	6	分かる授業	24	60	9	1	5	0
	7	個に応じた指導	39	45	9	2	4	0
	8	学習習慣	21	60	7	0	11	0
	9	情報教育	59	34	3	1	2	0
	10	学校図書館の活用	26	64	3	1	6	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	33	50	13	2	2	0
	12	道徳教育	17	49	7	1	26	0
	13	教育相談	42	43	12	1	2	0
	14	人間関係づくり	15	50	11	2	21	0
	15	自動的な活動	28	31	28	11	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	18	47	15	2	17	0
	17	相談への対応	67	29	3	1	0	0
	18	学校への参加	23	52	6	0	19	0
	19	地域との連携	44	40	12	3	0	0
	20	意見の反映	20	41	13	4	23	0
各学校の特色ある教育	21	検定等による学習意欲の向上	57	34	4	1	3	0
	22	新型コロナ対策としての健康・安全教育	21	49	7	2	21	0
	23	定期考査にむけた家庭学習	35	33	16	9	6	0
	24	外部人材の活動	17	46	11	2	24	0
	25	アクティブラーニング	76	18	4	0	1	0



0% 20% 40% 60% 80% 100%

26 58 50 11 0

47 42 50 50

26 53 21 0

53 42 0 50

53 42 0 50

37 58 0 50

42 42 0 16 0

42 32 16 0 11 0

42 37 11 0 11 0

53 26 11 0 11 0

47 37 0 16 0

42 42 50 11 0

42 47 0 11 0

37 53 0 11 0

47 42 0 11 0

47 42 0 11 0

58 32 0 11 0

37 53 0 11 0

58 26 0 16 0

32 53 0 16 0

84 11 0 50

32 26 21 0 21 0

58 32 0 11 0

58 26 0 16 0

42 42 0 5 11 0

無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

生徒8割弱が「あてはまる」と回答。教育目標をより具体的でわかりやすく説明する場などを設け、発信や周知を図る。

約9.5割の人が「あてはまる」と回答。生徒自身の学校生活への満足度は高いと思われる。居場所や活躍の場を設定し、自己実現を図る。

生徒は9.5割、保護者は8.5割が当てはまると回答している。校内だけでなく保護者や地域の方とも連携し、指導に力を入れる。

三者ともいざれも「あてはまる」回答率が高い。今後も継続する。

避難訓練や交通安全指導などにより年間を通して取り組んだ結果、「あてはまる」の回答が多かった。

生徒の8割強があてはまる評価。一方、保護者は6.7割に留まる。基礎学力の充実とともに、授業改善に努めていく。

前項目同様、保護者の肯定感が6.5%と低い。分かり易く魅力ある授業や全員参加を意識した授業展開等を行いながら、家庭学習と連携していく。

「あてはまらない」と否定的な回答が4割であった。家庭との連携を図った家庭学習充実のための取り組みが必要である。

生徒9.6割と大変高評価である。必要に応じて、今後もタブレットPCや電子黒板の利用を進め、情報活用能力の育成に力を入れていく。

「あてはまる」の回答は、生徒約8.5割。学校図書館を利用した授業などをさらに取り入れる。

生徒9割が肯定的評価と高評価である。キャリア教育などと関連させ体験的な学習を通し、豊かな人間性を育てていく。

全質問項目の中でも生徒による肯定的評価が多い。今後も教材を工夫し、道徳的実践力に富む生徒の育成を図る。

生徒の1.5割が「あてはまらない」と回答した。生徒が気軽に相談できる環境を整える。相談室だより等で生徒や保護者に周知していく。

近年、生徒、保護者ともに満足度が高い。今後も学校行事等の教育活動に工夫を凝らし充実させていく。

生徒の9割が「あてはまる」と回答。生徒会を中心に委員会を設置し自主的な活動を行うことで、生徒の当事者意識が高いと思われる。

ホームページ・便りとともにこまめな情報発信に努めているものの生徒の回答「よくわからない」が2割占めている。わかりやすい発信をしていく。

昨年度より保護者の「あてはまる」回答が1割増。保護者との連絡を密に行ない取り組む。保護者、地域との連携をさらに深める。

肯定的評価が2割増加している。感染症対策などの工夫をしながら、地域との連携をすすめていく。

保護者回答の全項目の中で「よくわからない」回答が一番多い。コロナ禍で工夫をしながらも再開した活動があることを周知する。

前回同様「よく分からぬ」と回答している保護者が多く、約4割だった。保護者会などを通して、保護者の方の意見や要望を集約していく。

「あてはまる」と回答した生徒の割合がわずかに増加。各種検定の周知を図り、さらに多くの生徒が興味・関心を高める工夫をする。

感染症対策だけにとどまらず、日々の生徒の健康管理を引き続き行う。

「あてはまらない」回答は少なく、考査前には家庭学習の取り組みが充実している様子がある。

「あてはまる」回答が生徒は8.5割。コロナ禍でも工夫して外部人材の取り組みが再開できている。

生徒の9割以上が「あてはまる」回答に対し、保護者は「よく分からぬ」と3割。話し合いや発表を取り入れた授業を公開授業などで積極的に行う。

